

2014年度
総会案内

UN Women日本国内委員会(国連ウィメン日本協会)
国連ウィメン日本協会東京 2014年度 総会
(Tokyo Sub-Committee of Japan National Committee for UN Women)

2014年2月6日(木) 13:00~16:00

津田塾大学同窓会会議室 (JR:千駄ヶ谷下車)

第1部 総会

第2部 講演会 14:30~16:00

「女性はもっと活躍できる」

講師: 岩田喜美枝氏

国連ウィメン日本協会副理事長

国連 WEP's リーダーズグループメンバー

長く続いているチャリティコンサート!! 2014年度初夏は「横浜」で開催!!
~~2014年度 第23回チャリティコンサートをお楽しみに~~

『金子 信(まこと) ピアノリサイタル』

2014年7月4日(金) 14:00 開演 (13:30開場)

横浜みなとみらいホール
3,000円(自由席)



◎多くのバザー会場では毎回、色とりどりのグッズを楽しみに買い上げいただいています。
収益は他の事業と合わせて毎年、国連ウィメン日本協会を通じてUN Women本部に送られ、
世界各地のプロジェクトに役立てられます。



*カンボジアの竹製品づくり



*フィリピン
変身人形



*インド
エプロンドレス



*バザー会場



☆ご入会・ご寄付をいただき有難うございました。

2013年7月1日~2013年11月末日(敬称略)

新規会員:

遠藤幸子 加藤晶子 岸 清美 櫻井幸子
関 裕子 田中幸子 松原美恵子

寄付者:

五十嵐康子 奥田豊子 阿部幸子
小田信昭 鷲見八重子 吉岡昭彦

☆UN Women東京へのご入会希望やご寄付の受付は、イベント会場や事務所で
承っております。多くの方々のご協力をよろしくお願い致します。

編集後記

☆このNLの編集で、早朝のニュース速報。人権運動の闘士、ノーベル平和賞受賞の南アフリカ共和国元大統領ネルソン・マンデラ氏の訃報。1970年代にジェンダー問題と関わりはじめた時、真っ先に知ったのがアパルトヘイトと人種・性差別の問題だった。1975年の北京会議で貧困撲滅・女性の地位向上活動に取り組み、途上国女性支援に気持ちを振り向けるようになった。マンデラ氏の闘争精神に学んだ“すべての人間に分け隔てない平等社会を・・・”の心を大切に持ち続けたい。合掌。(S)

UN Women 日本国内委員会東京委員会

UN Women東京 **News Letter** Vol.9

発行人: 東京委員会会長 鷲見 八重子

発行日: 2013年 12月20日

〒135-0033 東京都江東区深川2-6-10

上原ビル 1F

Tel/Fax 03-5809-8587

http://unwomentokyo.org

E-mail:unwomentokyo@unwomentokyo.org



UN Women東京 **News Letter** Vol.9

UN Women(国連女性機関) 日本国内委員会東京委員会

2013.12.20

第68回国連総会 第3委員会レポートから

UN Women東京の鷲見八重子会長は、第67回国連総会に引き続き日本政府代表顧問として第68回国連総会 第3委員会に参加、臨場感あふれる模様をレポートしてくださいました。社会、人道、文化にかかわる幅広い諸問題を扱う委員会です。その議場の風景と議案27「社会開発」議案28の「女性の地位向上」のステートメントを紹介します。

第3委員会は10月7日(月)から始まり、国連本部後方の建物(Conference Building)に変わりました。変わったのは会場だけでなく、会議のシステムも新しくなり、経費節減と環境資源保全から“Paper-Smart System”が導入され、ステートメントは基本的に紙で配布せず、ステートメント実施後ただちに事務局が、前もって各国から送付されているデータをインターネット上にアップします。WifiのPCを持参すれば、会議場でインターネットにつなぎステートメントを見られまし、同時に、世界中のだれもが会場にアクセスできるシステムです。

更に会場には巨大スクリーンが前方左右に配置され、議長団席やステートメントを述べる代表の顔が大きく映し出されます。そのためでしょうか、代表たちの身だしなみが、ぐんとよくなりました。男性はシャツとスーツを決め、胸元のネクタイに気を配り、女性はそれぞれ嗜好を凝らしたカラフルな装いに、さりげないアクセサリづかいが目を惹きます。アラブ圏の女性たちは、色とりどりの個性あるスカーフで髪をしっかり覆っています。表情はみなさん、まだ固いのですが、そのうちおそらく、もっと豊かなパフォーマンスになるのではないのでしょうか。

第3委員会の議長は、ブルガリアのHis Excellency Stephan Tafrov大使で仏語が基調ですが英語、スペイン語、ロシア語の4か国語を駆使し、時間厳守の冷静な司会をなさっています。副議長は3名、午後の日本の第一回ステートメントの時の司会はアイスランドの副議長でした。日本の席は前から3列目の左から4番目、イスラエル、イタリア、ジャマイカ、ジャパ、ヨルダン、ケニヤと並んでいます。どのように席が決まるのか謎でしたが、くじ引きで最前列の左端(今回はクロアチア)が決まるとあとはアルファベット順になるそうです。

10月7日(月)「社会開発」に関する日本政府のステートメントを読ませて頂きました。テーマは、若者の教育・就業、高齢者の保健・福祉、障害者の医療・生活支援など多岐にわたります。その中で日本は昨年の国連総会で採択された日本・ブラジル共同提案の「ボランティア



国連総会の模様を報告



主流化」決議を踏まえ、いわゆる“good practice”として、半世紀に及ぶ青年海外協力隊の活動と、2004年にスタートした学生ボランティア派遣事業を具体的に紹介しました。2013年度は、全国5大学から12名の学生がカンボジア、サモア、ケニヤ、ルワンダなど12か国で国連ボランティア特使として友好・平和に貢献したというホットなニュースです。

10月11日(金)議題28「女性の地位向上」ではUN Womenの新事務局長Ms.Phumzile Mlambo-Ngcuka(南アフリカ元副大統領)、CEDAW(女子差別撤廃委員会)議長Ms.Nicole Amelineの基調講演に続き、活発なインタラクティブ・ダイアログがあり、国連屈指の二つの女性機関のリーダーシップと目覚ましい成果に対し、各国から高い評価と感謝が相次いで述べられました。今後とも一致協力してジェンダー平等と女性のエンパワメントに指導力を発揮していくことが期待されると同時に各国の強力な支援が求められています。

10月14日(月)「女性の地位向上」のステートメントを読ませて頂きました。ステートメントは冒頭で、安倍首相の国連演説を踏まえ、女性の地位向上と能力開発、女性の健康・保険、女性の平和と安全保障への参画などの分野に3年間で30億ドル(約3兆円)の支援をすること、また紛争下にあるリビア女性の暴力被害救援のため、国連の「女性に対する暴力撤廃基金」に100万ドル寄付したことを述べ、さらに世界中の国において喫緊の問題である女性に対する暴力について、日本政府は、Ms.Phumzile Mlambo-Ngcuka新事務局長率いるUN Womenとの連携を強め、性暴力の予防対策と被害者支援に努力を惜しまないことを表明しました。

UN Women プムズイレ・ムランボ・ヌクカ 新事務局長

UN Women 前事務局長ミチェル・パチェレ氏の後任として、今年7月10日、バン・ギムン国連事務総長から事務局長の任命を受け就任したプムズイレ・ムランボ・ヌクカ(Phumzile Miambo-Ngcuka) 新事務局長は南アフリカ共和国出身で、1994年アパルトヘイト廃止後の最初の民主議会選挙で議員に選出され、故ネルソン・マンデラ元大統領に指名され数々の大臣を歴任、民主国家建設に貢献、2005年～2008年まで南アフリカ初の女性副大統領としての任務を果たしました。

2008年にはムランボ財団を設立して貧困地域の学校の教師に対する研修、助言と指導を通して『ムランボ基金』を設け、アパルトヘイトにより厳しい環境に置かれていた子どもたちの教育に取り組み、南アの貧困地区の学校を支援しています。

ムランボ氏は、戦略的リーダーシップ、合意形成、管理実務に関する問題処理の経験とともに、女性の問題に対する提唱活動に豊富な経験を持つ女性としてUN Women 事務局長に就任されました。氏はケープタウン大学で教育計画・政策哲学の修士号、国立レソト大学の教育学学士号の学位を取得したほか、2003年にはウェスタン・ケープ大学の名誉博士号を授与されました。

氏は就任にあたり「UN Womenの事務局長として、特に女性の経済的エンパワーメント、貧困撲滅、科学技術を活用した教育に力を注ぎたい」との抱負を述べています。1955年生まれ、3児の母親でもあります。



“紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表(SRSG)”一行が来日

“紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表(SRSG)”ザイナブ・ハワ・バングーラ氏(Ms. Zainab Hawa Bangura)は11月21日、参議院会館において国連ウイメン「開発と女性」議員連盟勉強会に参加し、国連ウイメン日本協会のメンバーも参加して話を聞く機会があった。バングーラ氏は西アフリカ・シエラレオネ共和国出身で54歳、2006年国連リベリア・ミッション長官、2007年からシエラレオネ外務国際協力大臣、保健衛生大臣を歴任後2012年から現特別代表を務める。

この特別代表は「紛争下の性的暴力に係る安保理決議1888号」に基づき事務総長により任命された。

軍事政権下での紛争を経験した氏は、着任後アフリカをはじめ各地の紛争地を精力的に視察、性暴力の被害者と直接対話し、表面に出てこない、また当事国政府も認めたがらない実態と闘い、国際社会に報告している。

①紛争下や戦場での暴力は「コストの掛からない破壊兵器」②敵対する民族や国の女性を凌辱するのは最大の屈辱と恐怖に陥れる「犯罪」であり「兵士の士気の低下やコミュニティ崩壊をもたらす」と断言。

これまでに多くの条約が決議されてきたが、犯罪当該国での取り組みがなければ、国連(NY)でいくら決議しても現場には役に立たない。皆様の活動に対し、一貫性ある支援と対応を求めます・・・と述べた。

TOPIC：フランスに国内委員会誕生！

パリ発・・・このほどフランスのUN Women国内委員会が立ち上げられたとのニュースがあり、既存の16か国の国内委員会に加えて世界17か国になりました。事務局長は「ジェンダー平等と女性のエンパワメント提唱活動とUN Women活動実施の後押しになるだろう」と期待しました。フランスの会長Miren Bengoaさんからは活動概要として「フランス国内委員会の目標は、女性の人権に関連する問題、例えば社会的、政治的、経済的分野における女性の参加とリーダーシップ、さらに女性に対するあらゆる形態の暴力との戦いを擁護すること」と説明されました。

UN Women 親善大使ニコール・キッドマンさんからのメッセージ紹介



日本の皆様、こんにちは。11月25日は女性への暴力根絶の日ですから、私はオレンジ色を着ています(国連は女性に対する暴力根絶運動のシンボルカラーをオレンジにしています)。女性・女兒への暴力はとんでも

ない暴挙で到底受け入れる事はできません。

私は一生のうちで女性・女兒の3人に一人がレイプされたり、殴られたり、虐待されるのを絶対見逃すことができません。私の母は女性が男性と差別された時には声をあげられるよう、まだ私が小さかった時にその種を蒔いてくれました。これこそ私にとって重要な事なのです。だから私はUN Womenの親善大使になりました。どうぞ女性・女兒への暴力根絶のために私と一緒に行動してください。

11月25日から12月10日は「16日間で世界をオレンジ色にしよう」が行われます。オレンジ色を着て、なぜオレンジを着るかを語ってください。

☆UN Women 日本事務所の閉鎖について

10月1日、2010年堺市に開設された“日本事務所”から以下のような事務所閉鎖の通知があった。

「2010年7月2日UN Womenは新しい、より広範な活動任務と意欲的な資金調達目標を掲げて設立されましたが、2011～2012年に続く金融・財政危機のため、目標を達成することができませんでした。2013年の初めには、残念ながらマドリードのスペイン事務所を閉鎖せざるを得ませんでした。

UN Women活動をプログラム実施国優先にするために慎重に分析・検討の結果、UN Women日本事務所を10月31日を以って一時閉鎖するという結論に至りました。」

UN Women 日本事務所
所長代行：ソニヤ・クレイトン

UN Women 東京 第22回チャリティコンサート

『ポリヌ・ヴィアルドのうた』 ～その多彩な魅力の源泉を求めて～



今年度の締めくくりは、若手女性演奏家三人によるチャリティコンサートとなりました。ポリヌ・ヴィアルドの「うた」～その多彩な魅力の源泉を求めて～は、タイトル通り、ポリヌ・ヴィアルドの優しく美しいメロディーの演奏とともに、ヴィアルドが活躍した19世紀をヴィアルドと彼女を取り巻く人々を中心に解りやすい説明で紹介されました。私たちは、じきに江戸東京博物館から、200年近く前のヨーロッパへと誘われました。

まずは「日本娘」から美しいソプラノで歌い上げられていきました。優雅に私たちを魅了するこれらの曲は彼女の厳しい生活環境の中ではぐくまれていったようです。生活を通してスペイン語、イタリア語、フランス語、英語、ドイツ語そしてロシア語まで習得。その流暢な言語で多彩に声楽曲を数多く残しています。前半の最後に演奏されたアヴェマリアはひときわ優しく、心地よいものでした。

あまり出会う機会のない女性音楽家の曲に接して、自立して強く生きている女性の姿を思い浮かべることが出来ました。

男性のお客様から「UN Womenのコンセプトにぴったりの素晴らしいコンサートだった」との嬉しい感想をいただいてとても励まされました。(Y)

=ひとくち感想=

江戸東京博物館という、会場そのものも大変魅力的な処を得て実施された女性作曲家を聴くコンサート。女性のエンパワーメントを目的とするUN Womenのような機関でこそ、無視され消し去られた女性作曲家を紹介せねば・・・との想いからだが、今回は出演者と相談しつつ、プログラミングにのみ関わった。

何よりも、歌(枝並雅子)、クラリネット(田中伊知子)、ピアノ(吉岡優子)の3人が、全面的な共感を以ってポリヌに取り組んだことを特筆したい。だがこれを可能にしたのも作品そのものの美と力があればこそ！

フランスのみならず19世紀全般の音楽のキー・パーソンと位置づけるべきポリヌは、スペインの大歌手一族生まれのプリマドンナにしてリスト直伝のピアニスト、シューマン夫妻やブラームス等ドイツ流もお手の物。音大音楽科の正統(?)ドイツ・リートを専門としてきた枝並も、すっかりそのラテン風味にハマリ、イタリア民謡風な「Ti voglio amar」など、見事に歌いあげてくれた。3人でポリヌを中心に被災地巡りのコンサートも企画中とのこと。これを機縁に、女性と音楽、そして社会をつなぐ視座が広まることを心から願いたい。(企画協力：小林 緑)



講演と学習会シリーズ第3回 「映画に学ぶ世界的女性たちは…いま」



「西洋鏡」=映画の夜明け=
シネマトグラフはこうしてアジアへ広がった

お話と解説：松本侑壬子氏



日本では6年も早く1897年(明治30年)、リオンに留学していた稲畑勝太郎がシネマトグラフを大阪に持ち込んだ。ジェンダー的に考えると、当時日本にはまだ「女優」がいなかった。恋愛物語には歌舞伎の「女形」が女性の代わりを務めた。無声映画ではこれで間に合っていたが、トルストイの「復活」が舞台で成功を収め、映画化されることになり、1920年(大正9年)松竹俳優養成所ができて、女優も誕生した。牧野省三は自分の娘4人を女優として出演させ、末娘の智子は後に大成した。彼女が父から指導されたのは「歌舞伎、新派、文楽人形の女形の振りを見て演技を身に付けよ」というものだった。

女性の立場から言えばナチュラルな動作ではない。実際の女性から学ぶのではなく「あのような女がいてほしい」と思わせる“女らしさ”である。西洋の女優は男役から学んではない。日本文化の中の女は「作られた女らしさ」であったという解説を興味深く聞くことができた。(F)